

決 定 理 由 書

1. 中津川都市計画の将来像における位置づけ

中津川市では持続可能なまちづくりを目指して、都市機能の集約を図り、既存の都市基盤を活用するとともに、リニアの開通に伴う新たな基盤整備を計画的に進めることとしています。

当市の都市計画マスタープランにおける将来都市構造は、生活圏のまとまりや都市機能・土地利用を踏まえた拠点を形成し、市内の各拠点を結ぶ「多拠点ネットワークによる集約型都市構造」を目指しております。

当市の坂本地区にリニア中央新幹線の（仮称）岐阜県駅が設置されることに伴い、岐阜県の東の玄関口となる「広域交通拠点」として、JR中津川駅を中心とした「都市拠点」との連携・機能分担を図り、リニア岐阜県駅を中心とした計画的な基盤整備を図ります。

そこで、土地区画整理事業の手法によってリニア岐阜県駅周辺の基盤整備を実施することにより、地域の活性化と秩序ある整備を図ります。

2. 当該都市計画の必要性・役割

リニア駅周辺地区は市内外への広域交通拠点としてリニアと在来線や高速バス、路線バス等への乗り継ぎ利便性を確保するための施設整備を図ります。また、交通結節点としての機能を確保するため、リニア駅の交通広場整備と併せて土地区画整理事業による計画的な基盤整備を図ることとしております。

リニア駅周辺地区は、中津川市西部の坂本地区の中心部であり、中津川市役所から西方向約 6km、中津川市坂本事務所から北西方向約 1.5km、一般国道 19 号線から北方向約 2.5km に位置しています。地区周辺には、地区南側に隣接して JR 中央本線美乃坂本駅、南方向約 0.1km に中津川市立坂本小学校が位置しています。

地区の整備状況としては、主要道路として地区の中央部を南北に県道苗木恵那線、地区西側に市道 126 号線が整備されています。その他の道路については、全て幅員 4 m 未満であり、行き止まり道路が多く、また、地区の大部分が農地であるため、道路の配置密度が非常に低い状況です。

本地区内外には、一級河川千旦林川及び一級河川坂本川が流れており、排水は、側溝等を利用して千旦林川及び坂本川に排出しています。

土地利用は、公共用地が約 17%、農地が約 63%、住宅が約 7%、山林が約 5%と農地利用が主であります。

本地区周辺は、平成 39 年のリニア岐阜県駅開業予定に合わせた濃飛横断自動車道及び（仮称）東濃東部都市間連絡道路の整備が予定されており、広域の交通結節点としての重要な役割を担う地区です。岐阜県の東の玄関口としてのリニア岐阜県駅周辺地区に相応しいまちづくりを行うことを目的として、必要な商業機能をコンパクトに配置し、駅前広場や幹線道路、区画道路など公共施設の整備改善と宅地の利用増進を図ることを目的に、土地区画整理事業を新たに都市計画決定します。